

奈良県生駒市で長く手入れがされない放棄林を開墾し、「里山」に再生しようという試みが始まつた。企業やNPO法人など民間が主導し、果樹園を造って子供たちに農業体験をさせたり、アジアの若者を招いて山林を農地に変える手法を伝えたりする計画だ。教育関連や省エネ技術に取り組む企業も関心を寄せており、関係者は「様々な分野の知恵を集め、地域創生に貢献したい」と意気込んでいる。

放棄林 もう一度里山に



生駒で企業・NPO主導

ん(44)は4月、「地域創生のモデルケースを作りたい」と知人のエコ関連企業やNPO代表らとプロジェクトを立ち上げた。大阪市内から電車や車で30分ほどとアクセスがいい生駒の山中を選んだ。

4月から月1回、里山ながれば若者も縁に囲まれ再生事業の意見交換会を開催。IT(情報技術)企業や教育関連団法人、国際非政府組織(NGO)など延べ約300人が関心を寄せ、参加した。「インターネットがついた」里山で仕事ができる「高齢者の経験を生かせば新しい農業が生まれる」「高齢者の意見が出た。鴻上さんは「様々な分野の人や企業が集まり、相乗効

里山再生には環境省も取り組む。同省自然環境計画課の担当者による「里山再生」の実現に向けた取り組みが、主に以下の通りである。
1. 地元農家への技術指導：地元農家の生産性向上と持続可能な農業実践を目的とした指導を行っている。具体的には、土壤改良、害虫防除、病害虫対策などの技術指導や、機械化農業への導入支援など。
2. 生態復元事業：里山の生態系回復を目的とした事業。主に森林整備、水土保持工事、生物多様性保全等の活動を行っている。
3. 生物多様性保護：里山に生息する動植物の保護と生態系の維持を目的とした活動。主に、希少種の保護育成、生息地の確保、生態系構造の保全等の活動を行っている。
4. 地域社会との連携：里山再生は地域社会の協力によって実現するため、地元住民や団体との連携が重要な要素である。主な取り組みとしては、里山再生に関する情報発信、意見交換会の開催、地域活性化イベントの実施等がある。
5. 研究・調査：里山再生に関する研究や調査を行い、その結果に基づいて実践的な取り組みを進める。主な研究テーマとしては、里山の生態系構造、生物多様性、地元農家の生産性向上等があげられる。
6. 教育普及：里山再生の意義や実践方法についての教育普及活動を行っている。主な取り組みとしては、里山再生に関する講演会、ワークショップ、展示会等がある。
7. 法律政策：里山再生に関する法律政策の立案や改定、実施監視等を行っている。主な取り組みとしては、里山再生に関する法律案の提出、実施監視、法規改正等がある。

教育・省エネ活用探る

里山再生には環境省も取り組む。同省自然環境計画課の担当者による「里山再生」の実現に向けた取り組みが、これまでのところは、主として、住民の高齢化が進んでおり、再生事業の担い手や資金の確保が課題となっている。一方で、地元の農家や、里山を所有する関係者の1人が、生駒市内の放棄林約1万平方㍍を取得。果樹園や畑ができあがれば、地元の農家に協力を呼びかける考えだ。11月には教育関連の一般社団法人と連携し、子供たちを招いて焼き芋大会を開いた。

高齢者の生活改善に取り組むNPO法人「エイジコンサーン・ジャパン」（大阪市）の理事長、塚谷曉子さんは「超高齢社会の日本は海外から注目されている。里山再生に民間の技術や知恵を集め、高齢者が社会で生き生きと過ごせるモデルを探つこう」と話す。

日経新聞（夕刊）2017年12月9日